

2015. 1. 1発行

広報イキシア67号

理事長 寺田一郎

『報道と福祉現場②～社会福祉法人問題』

昨年、朝日新聞は社会福祉法人問題を継続的に取上げました。主なものは次の通り。

5月19日「社会福祉法人の売買が横行、理事長ポスト数億円。社会福祉法人利権、飛び交う金」

5月26日「社会福祉法人の私物化、ワンマン理事長暴走」

5月31日「社会福祉法人の内部留保2兆円」

6月2日「社会福祉法人、親族企業に利益。社福の公私混同が横行」

6月17日「社会福祉法人の私物化、歯止め求める、厚労省検討会が報告書」

6月30日「社会福祉法人のこれから、今後の道筋、識者に聞く」

9月15日「社会福祉法人に天下り239人、昨年度、都府県・指定市幹部ら。社協の課題、人・カネ、行政頼り」

9月23日社説「限られた財源をやりくりしつつ地域の暮らしに大きく貢献している法人は少なくない。一方で資金を多くため込んでいる、運営が不透明、理事長職の世襲や天下りの弊害が目立つ、などの批判がある」として「情報公開」や「優遇税制の改革」などを解決策として挙げています。

厚労省検討会報告

6月17日の記事にある厚労省の検討会というのは「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」（座長田中滋慶応大学名誉教授）のことです。

厚労省はこの検討会を平成25年9月に立ち上げ、以来12回の会合を重ね平成26年7月4日に報告書が公表されました。

報告書は以下のような構成となっています。

検討会の目的は「現行の社会福祉法人制度の抱える諸問題を整理し、今後も社会福祉法人が我が国の福祉の重要な担い手として地域住民、ひいては国民の期待に応える存在であり続けるための改革案を検討するために設けられた」さらに、「地域における公益的な活動の推進」、「法人組織の体制強化」、「法人運営の透明性の確保」は、必ず実施していく必要があるものである」と強調しています。

社会福祉法人が時代の変化に対応していない、という訳ですが、ここでいう時代の変化とは、平成12年の「社会福祉の基礎構造改革」であり、平成25年6月14日に閣議決定された「日本再興戦略」のことであることは明らかです。政府の意図的な「時代

の変化」なのです。

日本再興戦略

在り方検討会の報告書では日本再興戦略への具体的な対応についても検討する、としています。「戦略」では「医療や介護、保育や年金などの社会保障関連分野は、少子高齢化の進展等により財政負担が増大している一方、制度の設計次第で巨大な新市場として成長の原動力になり得る分野である」と言っています。ここでいう制度設計とは、医療・福祉分野への市場原理の導入に他なりません。

さらに「今こそ、社会福祉法人制度に関わる者が自ら率先して改革を行わなければ、社会福祉法人制度は地域住民等の信頼を失い、その未来をも断ち切れかねない」と自己改革を強調しています。

新聞報道と検討会報告

これら一連の新聞報道と在り方検討会の報告とは、機軸を同じくしています。

社会福祉法人は、指摘されているように公的な補助金を受けて運営され、法人税や地方税も基本的に非課税です。その反面で厳しい規制の中での運営であり、細かい監査を定期的に受けています。法人の裁量による事業展開が難しい、状況の変化に素早い対応ができないという運営上の問題があります。

民間企業は、優遇策はない代わりに、経営の自由度は高くそのテンポは目を見張るほど早いものがあります。

さまざまな制度改革が提唱されている中で、規制緩和等は行政の責任です。それができて初めて社会福祉法人も効率的な運営や地域のニーズに迅速に対応する運営が実現するのです。

このあたりのことが手つかずのまま、民間企業の福祉事業への参入だけが先行してしまいました。その結果、民間企業による福祉現場で指定の取り消し等が顕著になっていることは示唆に富んでいるのです。

ワナーホーム2015

年男・年女 新年の抱負

山岡功平（長生統括センター長）

えっ、年男ですかあ？ 歳がばれちゃうじゃないですかーもう…この原稿を依頼されるまで全く意識していなかったのにー、参ったなあ。確かにどんどん目は悪くなるし、忘れ物は増えるし、冗談は若い人にウケなくなって来てるし。（あっ新年の抱負か！）

なので、実年齢の半分くらいのフレッシュさで頑張りたいと思います。（トホホ）



大久保 夏樹（柏統括センター長）

2015年新年の抱負は、「心と時間にゆとりをもつこと」です。柏拠点新規事業の展開、日々の業務に追われてきたこの数年間。職員達の努力と利用者さんたちに支えられ、ここまで歩んでこれたことに改めて感謝しています。

私自身がもう少し心と時間に余裕を持ち、現場の職員達の力を十分に活かす働きができるようになりたいと思います。



野老正樹（事務主任）

4月になると、在職期間が13年目を迎えます。ワーナーホームでも、ちょうど干支を1周しました。もう一通りのことは経験したと思っていましたが、まだ、新しい発見や経験はあります。今年も自分のさらなる成長と、それに加え、周りの成長を手助けできるような仕事の仕方を目指します。



縫山 清（ワークショップしらすと勤務）

ワーナーホームに入職して、5回目の正月を迎えます。初めての福祉の世界、しかも50歳を過ぎてからの再就職。利用者の『笑顔』に支えられての4年間でした。干支が1回りする本年、改めて初心に戻り新鮮な気持ちで利用者に寄り添い毎日を大切にしていきます。



亀澤 真弓（たんぽぽセンター勤務）

入職から2年半が経ち、柏拠点においてワーナーホームが担っている役割を勉強しながら、取り組んできました。事務として、まだまだ学ぶことは多いですが、必須をこなすだけでなく、事業全体が効率よく進むよう、広い視野と適切な対応を心がけたいと思います。



三鬼 京子（ヘルパーステーションそら勤務）

新年、あけましておめでとうございます。今年は末年。とかく気弱で用心深いこの性格を反省し自ら心を引き立て活発に仕事をしていきたいと考えております。切磋琢磨し知識・技術の向上を行い日々精進してまいりたいと思っております。



梶野 亜希子（すくすく勤務）

私の抱負は「思いやり」です。北柏拠点は3つの事業所が集結しており、様々な職種のスタッフが在籍し知識や得意分野も様々です。



連携の難しさを感じることも多々…。それぞれが気持ちよく仕事する為に、お互いが思いやりを持って尊重し合うことが事業の安定に繋がると考えています。

高橋 一禎（ワークショップしらさと勤務）

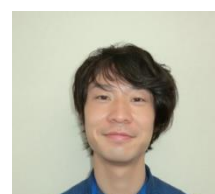
私の抱負は、「学」です。在職して約二年が経ちますが日々、利用者さんや先輩職員に本当に沢山の事を教えていただいております。

今年は研修参加・独学に力をいれ、それで学んだ事を利用者さんの訓練・就職に、ほんの少しでも力なれるようにします。本年も宜しくお願い致します。



相京 良明（ケアホーム第2勤務）

4月に入社し、9か月ほど経ちました。わからないことがたくさんある中で少しずつ職場にも慣れてきました。なので、今よりも出来る事を増やし、ミスが減るような仕事をしていきたいです。



根本 貴恵（みつばち訪問看護ステーション勤務）

曾祖母、祖母、母そして私と4代続く末の血も、私の代で絶えようとしております。ご先祖様、申し訳ありません。さて本年の抱負は末に因むことなく、「清く正しく美しく」です！心身共にまた、仕事内容についても、美しく爽やかに取り組んでいきたいと思っております。



一戸 彩香（だいち勤務）

新年あけましておめでとうございます。昨年は大学を卒業し、社会人としての一步を踏み出しました。社会人2年目に突入する今年は、チームワークを大切に仕事に取り組んでいきたいです。集団行動を好む「羊」ですので、チームの中で自分がどう動くべきか考えて実行していきます。



千葉拠点（鎌取）の事業展開

フジェール～共同生活援助～準備状況

「フジェール」という名前に2015年4月から始まる千葉拠点のグループホーム名が決定しました。フランス語で「しだ」という意味です。「しだ」は、かつては、癒しの薬として使用されました。また、心と体は複雑で多様なものですが、幾葉にもわかれたしだの緑葉は、「心」を病んだ人たちとその人たちを支えるスタッフで成り立っていることを意味しています。「しだ」は、下総精神医療センターのロゴにも使用されてい

ます。

さて、「フジエール」は、旧准看護学校の寄宿舎部分を使用して定員16名のグループホームとなります。現在、トイレ、浴室などを改修工事中です。看護師の卯さんたちが4人で使用していた部屋は1人部屋となります。

「フジエール」は、退院された方等が入居し、3年未満で、更に、地域の中へ溶け込める環境へ移行していただく「通過型」のグループホームです。長年入院していたために、すぐには1人暮らしが不安、食事が心配、生活費がいくらかかるかわからないなどの心配がある方に数年「フジエール」で生活していただく中で、地域生活に自信を持てるようになっていただきたいと思います。「フジエール」の目指すところは、主体的に自分らしい生活を職員と一緒に考え、目標を立て、巣立っていただくことです。



千葉市には、精神障害の方のグループホームがあまりなく、市外のグループホームに入居したり、不安を持ちながらもアパート生活になる方もおられます。今後、「フジエール」を機軸にして、千葉市で、居住の場を広げていかねばと思います。(三好)

ペジューブル鎌取～就労事業～



ワークショップ鎌取ではワーナーホームで3店舗目となる「PAISIBLE（ペジューブル）鎌取店」を平成27年4月オープンに向けて準備を進めています。

就労事業所としてパン屋を運営し、パン製造・販売の業務を通じて、仕事をすることや続けていける様々なスキル及び対人関係の築き方や接遇マナーなどの社会性を習得

してもらい、障害者の一般就労及び生活への支援を行っていきます。

また、千葉拠点事業所の周囲は、下総精神医療センターをはじめとした大きな医療機関や教育機関などがありますが、これらの機関を利用する人と近隣住民以外は、人の往来が少ない地域です。この地域でパンを販売することで、パンを買い求めてくる人たちが足を運んでくださり、それが、地域の活性化に繋がれるようにしたいと考えています。当事業所には、パン屋の仕事をしたために今年度から当事業所を利用されている方もいます。逆にパン屋が出来てから利用しますと言う方もいます。そこで、パン屋オープンを待っている方々に、11月から「パン製造プログラム」と題して、パンの種類や製造過程を知る事や衛生管理、接客マナーなどの準備プログラムを行っています。

来年度は、パン製造・販売を中心としながら、現在の環境整備(草刈り等)作業や印刷作業、クラフト製作も継続していきますので、ぜひワークショップ鎌取の活用及びご協力を宜しくお願い致します。美味しいパンを提供させていただきますので、「PAISIBLE鎌取店」のオープンを期待してお待ちください。(吉井)

第22回 みんなのまつり 2014

10月26日(日)に「第22回みんなのまつり」を行いました。今年は昨年度参加された団体と新たに「マリンハウス」「はっぴい☆ぼいす」「ヨーデル渡辺」「アンサンブルコスモス」「チークカラー」と多くの団体に参加して頂きました。また、ステージ発表の各団体が今年のテーマである「広がるっ!!笑顔の輪」の表現方法を考えて下さり、フォークダンス等でステージを見に来て下さった利用者のご家族・地域の方・関係機関といった方々と触れ合いながら、笑顔の輪を広げてくれました。「ホレブデイサービスセンター」では、手話コーラスと新たな試みとしてボディパーカッションを行ないました。ステージへ向けて毎日練習に励み、本番では職員と息の合った動きを見せてくれました。



そして、ステージの目玉企画として「ワナー選手権」と題し、玉入れゲームを事業所毎に利用者と職員が組んだチーム同士で対戦するものでした。その中では、各事業所の特色・団結力と事業所の良さが見えました。自分の所属している事業所を「頑張れ!負けるな!」と応援する職員・利用者の姿に、ステージを見に来た多くの人が熱い気持ちになり、魅了されたのではないのでしょうか。

決勝戦では「長生・ワークショップ茂原チーム」と「千葉拠点(鎌取)チーム」が試合を行いました。勝敗の行方は、「長生・ワークショップ茂原チーム」が準優勝、優勝したチームはなんと「千葉拠点(鎌取)チーム」で、開所して間もないですが、素晴らしい活躍を見せてくれました。



今年度新たにワナーホームの利用者になった方、新規開設した事業所の利用者や職員、そしてみんなのまつりに参加頂いた皆様が、「笑顔」になれたことと思います。これからも職員・利用者・関係機関・地域の方との時間を大切に、笑顔溢れる日々を歩んでいきたいと思ひます。(山後)

《バザー》

みんなのまつりの恒例になっているバザーですが、今年も地域の皆様からたくさんバザー用品のご提供を頂き、開催することができました。例年、バザーには近隣住民の皆様にも多くの方にご参加いただいております、今年も開場前から並んでいただく程に楽しみにしていただいていた様子でした。開場後は、混雑を避けるため入場の人数に制限を設けさせていただき、20名ずつの入場とさせていただきます。待ち時間が長くなってしまいましたが、そ



の分、会場内では混雑することなく、ゆっくりと品物を選んで戴けていました。ご来場いただいた方々に厚くお礼申し上げます。(古市)

《モザイクアート》

昨年に引き続き、今年もモザイクアートを行いました。今回は、ペットボトルの蓋を使い、まつりのテーマでもある「笑顔の輪」を表現した花のイラストを作成しました。来場者の皆さんにも蓋の上に名前や好きな言葉を書いて頂き参加したみんなで作り上げることができました。(古市)



《スタンプラリー》

今回のスタンプラリーでは、ワーナーホーム内に隠れている目印、ハロウィンのカボチャを探していただき、カボチャが持っているシールを集めてもらいました。カボチャは見つけにくい場所にもあったのですが、用意した景品の数以上に参加をしていただくことができました。(古市)

2014 職員の活動報告

《全体会議》

2014年10月20日にパンプキンハウスホールにて全体会議が開催されました。全体会議は年に2回(4月・10月)開催されており、この会議の目的は、法人全体の情報の共有、意思の統一を図ることとなっています。本来であれば、全職員に参加して頂きたい内容のものですが、職員数は全体で150名を超え、県内の複数の地域で事業を展開していること、また、各事業所での利用者さんの対応もあり、その職員が一堂に会することは難しい状況があります。それでもできるだけ多くの職員が顔を合わせ、理事長や施設長から今後の法人の事業展開や方針について直接話しを聞くということを大切にしています。10月は、試みとして、柏拠点の職員には、ビデオ会議システムで全体会議の様子を視聴してもらいました。

ちなみに今年度は、次のことが報告されました。

4月

- ① 2014年度事業計画について(本部、施設、委員会、イキシア会・カトリア会)

10月

- ① 辞令交付・新入職員紹介
- ② 今後の事業の展望について
- ③ 業務の振り返り

④リフレッシュ休暇制度の展望

10月は新入職員への辞令交付の後、理事長より法人全体の中での自分の所属する事業所の役割、そして、その事業所の中での職員ひとりひとりの役割をしっかりと考え、業務に当たって欲しいとの話がありました。また、各施設長からは上半期を終えての事業の振り返りや、今後の事業の展望、課題についての報告がありました。

また、三好センター長より、法人内のルールを再確認するという作業が行われました。そして、最後に理事長から長期勤務してくれた職員とその家族の労をねぎらう為にリフレッシュ休暇制度を検討中であるとの話がありました。

このような内容で年2回、各事業所の正職員やパート職員にも参加してもらい、全体会議を実施しています。(野老)

《所内研修》

○救急法

平成26年9月16日にパンプキンハウスホールにて、日本赤十字社千葉県支部救急法指導員の屋代洋一先生をお呼びして、救急法短期講習を行いました。ホレブ寮をはじめワナーホームの入所施設に入所している利用者の高齢化が進んでいる為に、急変時など緊急の判断や対応、連携方法を学び適切な行動が取れる事を目的として行いました。



研修内容として救急法の基礎知識や三角巾の使用方法、心肺蘇生の実施演習、AEDの使用方法、応急手当や搬送方法、身近な物を使った止血方法や骨折時の応急処置など多くの項目があり、講師の説明も交えつつ実務演習を行えるように配慮していただき、様々なことを学び身に付ける事が出来ました。今回の研修で学んだことを日頃から生かせるように職員一人一人が意識を高めて、緊急時に対応出来るようにしていくよう職員の質を高める為にも今後も定期的に講習を行う必要があるのではないかと考えています。(石山)

○権利擁護～権利擁護・虐待防止～

11月所内研修として「権利擁護・虐待防止」の研修を行いました。対人援助職として必要不可欠な対応の考え方、接遇の基本を今一度学び直す事で自分の言動が相手に与える影響について考える事ができました。

虐待防止委員が講師役を務め、日々の対応を振り返り、グループワークやロールプレイを交えながら行いました。利用者への自分の関わりや言葉使い、言葉以外のメッセージ、コミュニケーションについて他者から意見をもらえ、普段気付けない自分の傾向などを知る事ができました。今回学んだ事は権利擁護・虐待防止の基本となる為、職員が自らの言動に気づき今後の業務で意識して支援を行う機会になりました。(石山)

《自主勉強会》

自主勉強会は通常の所内研修と違い、勤務時間外に職員が自主的に集まって知識を深

めたりテーマを決めて議論するスタイルで、職員としての技術や質を向上させること、他事業所同士が連携出来るようになること、また特に新人職員の入社後のスキルアップなどを目的に行っているものです。

今年は事例検討会を多く行い、グループワークを通して、発言力や討論する力を伸ばすことを意識しました。また従来の夕方1～2時間の開催だけでなく、祝日の1日を使った集中自主勉強会も行いました。自分が所属する事業所の業務だけでなく、広く制度や支援者として必要な視点や姿勢について十分に時間をとって学ぶことが出来たと思います。一方で業務を抜けられず参加できなかった職員もいて、今後の自主勉強会の実施形態について検討が必要だと感じています。

これからも工夫を凝らしていい研修を開いて行きたいと考えています。(押田)

ワークショップ茂原

四月より就労移行支援事業

ワークショップ茂原は定員20名の就労継続支援B型事業所として、ペジューブル茂原店を運営しています。柏で人気のあるペジューブルの2号店です。天然酵母を使う全て自家製のベーカリーでは、利用者さんが製造と販売の現場に立ち、活躍しています。

現在、登録者数は少しずつ増えてきていますが、参加者数を増やす課題がある一方では、利用希望者や見学者で福祉サービスを利用したことがない方、就労経験がない方は就労継続支援B型事業所の利用が難しいという問題があります。ワークショップ茂原では、行政や長生プリオと調整して利用へと繋げているところですが、このような問題を解決すべく、2015年4月から就労移行支援事業(定員6名)を開始し、さらに幅広く利用者のニーズに対応できるようにします。(吉野)

ワーナーホームの主な動き

【9月】

- ・ウォーキング大会(小中池公園)～だいち～
- ・秋レク(BBQ)～ワークショップしらさと～
- ・レク千葉動物公園～ホレブデイサービス自立訓練～
- ・第25回ロザリオ福祉まつり出店販売～ワークショップしらさと～
- ・障害者就労促進事業 障害者雇用促進のための企業向け相談会～山武プリオ～
- ・ボーリング大会(柏駅前ヤングボール)～たんぽぽセンター

【10月】

- ・保護者懇談会～すくすく～
- ・城西国際大学学園祭出店販売～ワークショップしらさと～
- ・やまもも祭出店販売～ワークショップしらさと～
- ・心の健康フェアINちば出店販売～ワークショップしらさと～
- ・就労促進チャレンジ事業・企業見学会（西川水産）～夷隅ブリオ～
- ・障害者雇用促進就職面接会（ポートアリーナ）
- ・バスハイク（横浜中華街）～たんぽぽセンター～

【11月】

- ・レク紅葉狩り～ホレブデイサービス自立訓練～
- ・日帰り旅行（葛西臨海公園）～ワークショップ鎌取～
- ・秋レク（BBQ）～だいち～
- ・レク芋煮会～ワークショップ茂原～
- ・職場体験受入れ（福岡小学校）～ホレブデイサービスセンター～
- ・就労支援ネットワーク強化充実事業研修・交流会～山武ブリオ～
- ・外出カラオケ（ビックエコー柏）～たんぽぽセンター～

【12月】

- ・クリスマス会、忘年会～ワークショップ茂原～
- ・忘年会～ワークショップしらさと・だいち～
- ・障害者雇用のための意見交換会（勝浦ホテル三日月）～夷隅ブリオ～
- ・クリスマス会

寄付・会費をくださった方々

平成26年8月～平成26年10月

《寄付》

久保田文蔵・陣内操子・萩原衛・徳倉基宏・村松正敏・ステップクリーン・眞起工業・大網白里市社会福祉協議会白里支部・（有）あいの手看護サービス・医療福祉法人社団千歯会

《千葉拠点寄付》

田中修一・金子延代・小島光洋・今井清光・飯田智・長友泰史朗・石橋豊和・田邊裕和・萩原良子

竹村堅次・川井由香子・宮負栄・中村和郎・久保田文造・林敬三・工藤秀久・麻生嘉孝・成島麻子

小野喜弘・遠藤雅子・木村末治・阿部美智子・八巻哲雄・林サト・佐藤繁夫・佐久間道夫・鶴泰裕

村上隆三・房総平和園・三晃社・吉井和弘・春田秀雄・小嶋哲夫・丸山多恵子・青木栄・三田久子

村山和雄・坂本一郎・大森民人・上村フク・若菜良子・富沢正昭・渡邊晋作・田中孝放・石井誠一・富澤祀夫・大谷偕子・猫田陽子・茂腹敏明・椎名寿康・鈴木とし子・鈴木真美子・社会福祉法人創志会・下総精神医療センター福祉相談室
医療法人社団千歯会・社会福祉法人光正会・特定非営利法人ウィズ・炭火焼鳥おかげ

《イキシア会員》

〈正会員〉

大久保昭・林サト・石塚鑑司・社会福祉法人創志会・社会福祉法人舟伏

〈賛助会員〉

西尾正人・島田栄子・小島光洋・飯田智・田邊裕和・長友泰史朗・川井由香子・中村和郎・麻生嘉孝・小野喜弘・佐藤繁夫・桜井眞理・丸山多恵子・鹿島美和子・猫田陽子・清野恵美子・中西小夜子

(順不同・敬称略)

イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解を頂き、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年3回(1月・5月・9月)発行されます。

〈会費〉

賛成会員 3,000円(年)

正会員 10,000円(年)

編集後記

あけましておめでとうございます。今回から、イキシアの作成を担当させていただきました。慣れない作業に戸惑いながらも、みんなに助けられて完成することが出来ました。今年は、今まで以上に様々な事に挑戦したいと思っています。2015年もよろしくお願ひします。(M)